

東海市のまちづくりの通知表をつけてみました！

～ 第2回 とうかい未来づくり会議 開催レポート ～

2022年3月21日（月・祝）13時半～16時半、東海市役所地下大会議室で「とうかい未来づくり会議」を開催しました。この会議は、今後10年間のまちづくりの方針を定める総合計画づくりの一環で開催するものです。市民の皆さんと一緒に、「これから10年間の東海市の暮らし」について生活者の視点で自由に話し合い、今後の主な課題や求められる具体的なまちづくりの取組について考えることを目的として、令和3年12月～令和4年11月まで計5回程度開催する予定です。以下、第2回の会議の様子をご紹介します。

■まずは前回の振り返りからスタート

今回のとうかい未来づくり会議は20歳代から70歳代まで、幅広い世代の方40名程度にお集まりいただきました。前回は参加者一人ひとりが思う「10年後の東海市」を考えていくというワークを行い、東海市が10年後にどんな街になったらいいかを参加者の皆さんで想像し、まちの方向性について議論していったことを確認しました。

■グループワーク「まちづくりの通知表をつけてみよう！ PART 1」



第6次総合計画をもとに4～5に別けられたテーマの中から興味のあるテーマを選択し、そのテーマについてこれまでの10年間の取組の評価をする「まちづくりの通知表をつけてみよう！」というワークを行いました。ワークでは、参加者がそのテーマについて「もう少し頑張りましょう」や「よくできました」という評価をしていきました。ワークを通して、東海市のまちづくりの現状が鮮明に浮かび上がっていました。

■第7次総合計画の策定に関する市民意識調査の結果を報告

1巡目と2巡目のグループワークの間に、第7次総合計画の市民意識調査の結果について、事務局からポイントを抜粋しながら紹介しました。市民意識調査は、住みやすさや第6次総合計画の施策に対する評価を通して、「東海市がどのようなまちになったらいいのか」などといった市民の意見を把握し、今後10年間のまちづくりにつなげるための調査です。

例えば、「まちづくりや住みやすさ」の評価は高い一方で、一部の地域や世代には公共交通や環境面での改善が今後必要であるといった調査結果が紹介されました。



■グループワーク「まちづくりの通知表をつけてみよう PART 2」

東海市のまちづくりの取組に対する評価の2巡目を行いました。2巡目においては、1巡目よりも慣れてきたこともあり、議論がより深い内容の話し合いになっていきました。普段なかなか話せないことも本音で語られ、議論が進んでいきました。また「1巡目と2巡目を違うテーマで話したが、2つのテーマがつながっている部分もあることを実感し、多角的に議論ができた」と感じた方もいました。

■各グループからの成果発表

各グループから取組に対して評価できる点を出していただきました。

1巡目では、「健康・福祉・子育て」分野のグループでは、評価できる点としては放課後児童クラブが無料だということや大学生等まで入院医療費の自己負担額が無料だということが挙げられていました。逆に「もう少し頑張りましょう」という点については、地域で遊ぶ場所がないことや、高齢者が活動できる場所や機会が少ないことが挙げられていました。参加者のみなさんがそれぞれ自分の東海市での暮らしを振り返り、グループで共有していくことによって東海市のまちづくりの取組に対する評価が進んでいきました。

2巡目では、例えば「環境・市民生活」というテーマを議論したチームからは、評価できる点として「公園が増加していて良い。散歩しても気持ちいい」という意見や「地域内の防災施設の整備・取り組み」があがっていました。一方、もう少し力を入れてほしい点としては、「空気が悪い」「ごみ集積場が汚い」「消防団の活動に参加している人が減少している」という意見があがっていました。



■最後に継続的な協力をお願い

最後に、講師の日本福祉大学国際福祉開発学部特任教授の千頭先生からご講評をいただき、「前例踏襲ではない、新しいコミュニティのつくり方を、市民間でとことん議論をしていかなければならない」、「市民で力を合わせて新しいことに取り組んでいけば、より住みたくなるまちになる」というアドバイスをいただきました。閉会にあたり、改めて事務局より、今回の市民会議は、総合計画づくりの本格的な議論の場であることをお伝えし、今後も引き続きご参加・ご協力いただくことをお願いしました。

